花巻市博物館
博学連携だより

ふくろう

第274号
令和8年10月

出前授業「戦争と花巻」

９月に「戦争と花巻」の出前授業が２つの小学校で行われたので紹介します。どちらも６年生が対象でした。



６年生３７人がスライドを見て花巻空襲を学習（石鳥谷小）

１校目は９月１５日（火）に行われた、石鳥谷小学校の６年生３７名です。授業は、①スライド解説～②実物資料観察という進め方で実施しました。教科書の「戦争と人々の暮らし」の学習前でしたが、どの児童も学芸員の説明を集中して聞き、戦争の時代に実際に使われていた実物資料を、興味深い様子で見たりさわったりしながら観察していました。

代表児童の感想

・僕はこの話で、召集令状で戦争に選ばれたら逃げられないことが分かって、その時代の生きにくさを感じた。
・この町で空襲や戦争があったことが分かった。
・この戦争で爆発があって（その破片は）ちょっとのかけらでもすごく重く感じた。その頃の小学生は、普通の授業じゃなくて戦争の授業をしていたので、かわいそうだと思った。

２校目は９月１６日（水）に行われた若葉小学校です。若葉小学校の６年生は、総合的な学習で花巻の戦争を学び、その学習成果を学習発表会で発表するという計画を立てて学習していて、前週に「花巻が燃えた日」の作者の加藤昭雄さんから話を伺った後に、博物館の出前授業を行いました。

実物資料の観察は、多人数（４学級１１８人）のため二つに分かれて実施しました。さわれる資料にふれて重さや質感などを確認し、爆弾との背比べも積極的に行っていました。入れ替えの手間はあったものの、実物を見たことで理解は深まったようです。



５００ポンド爆弾モデルと背比べ（若葉小）



花巻出身の兵士の遺品を解説（若葉小）

代表児童の感想

・今回で、いろんなことを教わったが、特にアメリカ軍が花巻に攻撃した理由とか、攻撃の仕方とか、武器とか、そういうものについて本当によく分かったし、見たり、触ったりする現物を観察できたのがすごいとてもいい経験になったなと思う。
・１８歳や１７歳の若い年齢の人たちが看護師とかそういう助ける立場で怪我した人たちとかを助けていたことに対して、僕も怪我して林とかに倒れてたら、そういう人たちがいたら心強いなと思った。
・花巻の空襲では、すごい残酷な首が取れた死体とか、そういう残酷なことがあって少し怖いなと感じたし、落とされた爆弾も想像以上にすごく大きくてびっくりした。
・実物や、話とかを聞いて、「戦時中の暮らし」のテーブルにあったが、１４歳から少年兵を募集しているのを見て、僕も１１歳だけど、そんなに若い人たちも戦地に行くっていうことが、もし自分がその時代に生きていたなら、苦しすぎて絶対に戦争には行きたくないってなっちゃうが、そうやって行かされたっていうことが、すごい悲しいし、死んじゃうから、すごい怖いなって感じた。

裏面に続く

中学校博物館見学の紹介


盛岡藩の参勤交代図巻（複製）で行列の人数を数えてみた

９月２日（水）に、湯本中学校１学年生徒２７名が博物館見学に来館しました。今回来館した生徒は昨年、湯本小６年時に見学に来館していることから、通常と異なる形での見学を行いました。具体的には、学級を二つに分けて、①湯本地区の中世城館と花巻城成立前後の花巻周辺の歴史に関するスライド解説並びに展示解説、②バックヤード見学と武具（火縄銃・模造刀）の観察および体験の二つを、交代で実施しました。

自分たちの住んでいる地域にもかつて城館があったことや、武具の重さや持ち方などに新たな発見と驚きがあったようでした。


火縄銃と刀（模造刀）を解説～この後、持って構える体験を実施


仙台藩との藩境で、守りが重要だった花巻を解説

生徒の感想

- 豊臣秀吉が花巻に関係しているということを初めて知った。
- 甲冑のところに花が描かれているのを初めて知った。
- 豊臣秀吉が花巻城に関係していたことも初めて知ったし、湯本の地区にも城や館があったのも初めて知った。
- 火縄銃が重かったけど、刀が思ったより重くはなかったから少しそこにびっくりした。
- 花巻に城があるということがびっくりしたし、火縄銃の運び方についても教えてもらったけど、手で持つんじゃなくて肩にかけて運ぶというのが驚きだった。面白かった。


湯本地区の中世城館の解説～豊臣秀吉と花巻との関わりなどを解説

特別展 大正イマジュリィの世界

９月１２日から始まった「大正イマジュリィの世界」展は、多くの来館者を迎えて開催中です。


竹久夢二のコーナー

９月２７日には、郡山市立美術館の永山多貴子館長を講師に迎えて、「大正イマジュリィの魅力」と題した記念講演会を行いました。講演では、宮沢賢治の「春と修羅」の装幀に関する話などたくさんのことが話され、出席者は感心しきり。最後は大きな拍手が贈られました。



郡山市立美術館
永山多貴子館長


宮沢賢治「春と修羅」
（装幀：広川松五郎）


夏目漱石「吾輩は猫である」
（装幀：橋口五葉）


第1章「大正イマジュリィの芸術家たち」の入口付近エリアの作品群

※参考：第2章はすべて撮影禁止です。